

ニホンナシハモグリダニ（仮称）の発生について

1. 病害虫名：ニホンナシハモグリダニ（仮称） *Eriophyes* sp.1

2. 発生作物：日本なし

3. 発生の経過

令和2年7月、県南部の果樹園において葉に火ぶくれ症状が発生している日本なし樹（品種：幸水、あきづき）数本が発見された（図-1、2）。同樹から検体を採取し、法政大学植物医科学センターに同定を依頼したところ、表面が褐色化している火ぶくれの内部にダニが確認され、ニホンナシハモグリダニ（仮称）と同定された。

国内における本種の発生は、神奈川県、長野県、栃木県で確認されているが、本県における発生は初めてである。

なお、本県では平成29年に西洋なしにおいても葉に火ぶくれ症状を引き起こすセイヨウナシハモグリダニ（仮称；*Eriophyes* sp.2）の発生が確認されているが、本種とは別種である。

4. 形態・生態と被害の特徴

（1）成虫は体長約0.2mmで淡黄色のうじ虫型（図-3）、卵は球形半透明である。

（2）生態については明らかにされていないが、神奈川県の病害虫発生予察特殊報によると、本種は芽の中で越冬し、発芽とともに芽から脱出し、葉に火ぶくれ症状を引き起こし、火ぶくれの内部に生息するが、暖かい時期には葉裏の開口部から外に出て新たな被害を及ぼすと推察されている。

（3）葉では、やや膨らむ火ぶくれ症状を呈し、被害が進むと黄色～暗褐色を呈する。

（4）果実では、両品種とも7月から収穫直前までの間は火ぶくれ症状は観察されなかった。なお、長野県の病害虫発生予察特殊報では、幼果に葉と同様の火ぶくれ症状が形成されるが内部に虫体は確認されず、成熟果実の被害症状は確認されていないと報告されている。

5. 宿主範囲

日本なし

6. 防除対策

（1）火ぶくれ症状のある葉は摘み取って埋却するなどして処分する。

（2）本種の被害拡大を防ぐため、発生園地での穂木の採取は行わない。

7. 資料



図-1 被害状況



図-2 葉の火ぶくれ症状 (左: 葉表 右: 葉裏)



図-3 ニホンナシハモグリダニ (仮称)
(左: 実体顕微鏡撮影 右: 電子顕微鏡撮影 武井氏原図)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
天王分場班	TEL	018-878-2251
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		